D 82　　写真による着じわの評価

愛知教育大　○加藤祥子　日下部信幸

目的　着じわの評価に写真を用いることは、発生した着じわを瞬時に間接的にとらえ、半永久的に保存できることから有効であると考えられる。本研究では多様な撮影を試みながら、簡便で、再現性があり、実物の着じわと同等な評価を得る撮影法を追及し、袖肘部の写真による着じわの評価について検討する。

方法　実験服は綿ブロードで作成した長袖のブラウスで、10分着用後すぐに実物の着じわについて判定を行い、撮影した写真については後日それぞれについて判定を行った。判定は、実物が7形容詞対、写真については写真の特徴を評価する4形容詞対を加えた11形容詞対によるＳＤ法で行った。判定者は64名の本学女子学生、解析は分散分析、クラスター分析、因子分析、数量化Ⅳ類によった。

結果　分析の結果を総合すると、実物の評価に近い評価を得た写真は、上部にあまり強くない光源を用いたもの、あるいは上部の弱い光源に加えて弱い他方向の光源を用いたものであった。中でも、陰影状態がよく、簡便である撮影条件については、100Wの白熱球を着じわの直上より60cm前方から照射する方法が適当であろうと思われた。